

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 217

2014/09/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

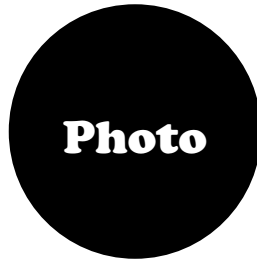
GREEN COLUMN

01. 新しく見つかったトンボ

02. 食べられる！使える！植物



今月の一枚



「トンボの王者 ギンヤンマ」

表紙写真・文／鬼丸和幸

トンボの中でもギンヤンマは、大きさ、体の色の美しさ…からして、王者の風格を備えています。水面上をゆうゆうと飛ぶ姿は、とても貫禄があります。今年は、7月初旬からその姿を見ることができました。動きがとても速いため、なかなか写真を撮るのが難しいのですが、岸辺近くで産卵しているシーンに偶然出くわし、念願の写真を撮ることができました。

Event. 今月のイベント

特別展「ボクたちの町にくらす野鳥」 7月6日(日)～10月26日(日)

クイズラリー「あなたも、美幌はくぶつかん博士だ！」 9月2日(火)～9月30日(火)

プチ工房「消しゴムはんこの布バック」 9月11日(木), 18日(木)

モノ作り講座「ガラス玉をつくろう(初級)」 9月26日(金), 27日(土)

第5回 自然講座「知っているようで知らない木のおもしろ話」 9月27日(土), 28日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房 「消しゴムはんこの布バック」

●9/11(木), 18(木) 10:00 - 12:00, 13:00 - 16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(150円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要

モノ作り講座 「ガラス玉をつくろう(初級)」

●9/26(金), 27(土)【午前の部】10:00 - 12:00【午後の部】14:00 - 16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料(600円), エプロン, お手元が見えにくい方は眼鏡 ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(9/2 - 9/23)。対象は小学3年生から一般。定員8名で締切。申し込み後のキャンセルは9/23まで。それ以降は保険料(100円)が必要。

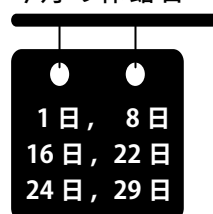
第5回 自然講座 「知っているようで知らない木のおもしろ話」

【講演会】●9/27(土) 16:00 - 17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●枝澤則行(ふるさと美幌の自然と語る会) ●申込み不要 【観察会】●9/28(日) 9:00 - 12:00 ●美幌町内 ●保険料(100円), 野外で活動できる服装, 雨具 ●枝澤則行(ふるさと美幌の自然と語る会) ●美幌博物館へ電話申込み(9/2 - 9/23)。キャンセルは9/23まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は小学4年生から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。

第6回 自然講座 「シマフクロウは美幌町に暮らせるのか」

【講演会】●10/11(土) 16:00 - 17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●外山雅大(根室市歴史と自然の資料館) ●申込み不要 【観察会】●10/12(日) 9:00 - 12:30 ●美幌町内 ●保険料(100円), 野外で活動できる服装, 長靴, 雨具, 双眼鏡 ●外山雅大(根室市歴史と自然の資料館) ●美幌博物館へ電話申込み(9/2 - 10/8)。キャンセルは10/8まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は小学4年生から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員25名で締切。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

新しく見つかったトンボ

写真・文／鬼丸和幸



福住地区には、北海道一広い面積を誇る「美幌温水ため池」があります。かつては、美幌川から水を引き、ため池の中を通すことで、冷たい川の水を温め、用水路を通して水田へ流す役割を果たしていました。現在は、周辺に水田がなくなったため、稲作用に使用されることはなくなりました。しかし、温水ため池の周辺は、草原、川、林で囲まれていることもあり、現在では多くの水生生物が暮らす貴重な場所となっています。

ここで見られるトンボの数・種類は、美幌町一です。季節を通して、様々な種類のトンボを間近に見ることができます。今夏、新たにこの温水ため池で、オオトラフトンボ、ホンサナエの2種類のトンボを見つけることができました。

オオトラフトンボは、体長 55 ミリ前後の中型のトンボです。池沼や湿原、

湖で見られます。名前のとおり、体がトラのような黒と黄色の模様があります。目玉が深緑色と、とても美しいトンボです。このトンボは、水面上を行ったり来たりして飛んでいるのですが、なかなか岸辺に近づいてくれず、捕まえるのにとても難儀しました。

ホンサナエは、体長 50 ミリ前後の中型のトンボです。左右の目玉が離れていて、ちょっとずんぐりしているのが特徴です。川の中流～上流域で見られます。

これから秋になりますが、新しい種類の“赤トンボ”が出てこないか、調べてみたいと思います。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

食べられる！ 使える！植物

写真・文／城坂結実



草や木などの植物は、動物や昆虫と違い、ほとんど動かない生きものです。動かない（動けない）からこそ、じっくり観察できますし、面白いところもたくさんあるのですが、一瞬のインパクトには欠けてしまいます。動物のようにクルクルと表情が変わることがないので、一度見たら「ああ、あれね。」と通り過ぎられてしまうこともしばしば…。

そんな植物ですが、食べることができたり、使うことができると伝え、人々の目の輝きが変わります！！もちろん、食い意地のはった私も、そんな植物は大好き。これから訪れる実りの秋は、多くの方が楽しみにしている季節の一つでしょう。

ホオノキ（樹木）も、実や葉が食べられる・使える植物です。写真は、10月ころに赤く色づき、地面に落ちたホオノキの実。赤くトゲトゲとした

形は、南国のフルーツの様にも見え、おいしそう。残念ながら、フルーツのようにそのまま食べることはできませんが、アイヌの人たちは、この実を乾燥させて煎って煮出し、お茶として飲んでいたそうです。また葉は、岐阜県北部の郷土料理の朴葉味噌（ほおばみそ）としても有名なように、様々なものに使うことができます。例えば、ホオの葉の殺菌作用や香りを利用して、おにぎりを巻いたり、肉の蒸し焼きをしたりするとおいしい料理ができあがります。

この中で、唯一やったことがないのが、ホオノキのお茶。今年はなんとか挑戦できたら、と思っています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員^補のつぶやき



.....
常設展示室（第2展示室）にある、エゾリスのコーナーを模様替えしました。以前作ったエゾリスの頭骨標本を、全体が見えるように、回転台に載せて展示しています。エゾリスの剥製の横で、クルクル回る頭骨標本…ちょっとシュールかも！？
（城坂）